

第Ⅳ章 合意形成や参画の促進に向けた取組み

1. VRを活用した普天間飛行場跡地利用における将来イメージの制作

(1) VR（バーチャルリアリティ）の作成

(1) -1 VR作成の意義と目的

(1) -1-1 意義と目的

跡地利用の全体的なレビュー、県民、地権者、関係機関等とのイメージ共有並びに意見集約、行政協議や各種プレゼンテーションなど、本計画の具体化を効率的・継続的に支援することを目的とし、跡地利用計画のまちづくり将来イメージを中心とした汎用三次元デジタル空間である「多機能バーチャルリアリティ（VR）」コンテンツを制作する。

(1) -1-2 VR活用方法

柔軟に更新できるVRの特徴をふまえ、普天間飛行場跡地利用計画においてのVR活用方法を以下に整理する。

- ・プロジェクト関係者間でのイメージ共有
- ・市民や地権者との合意形成
- ・周辺市街地と連携した地域景観のシミュレーション
- ・プロジェクトにおける効果的な運用・計画上のマネジメントに活用

(1) -1-3 本調査でのねらい

本調査におけるVR制作のねらいは以下のとおりである。

- ・普天間公園（仮称）懇談会からの提言を踏まえ、検討した箇所を別案として更新すること
- ・VRを活用したプロモーションビデオ（PV）を作成すること
- ・計画内容の具体化に向けた議論のたたき台とすること

(1) -1-4 本調査での留意事項

本調査におけるVR制作に係る留意事項は以下のとおりである。

- ・提案内容が柔軟かつ様々な可能性があることを示すため、想定された街の骨格を基に自然環境や建物の空間イメージを複数案作成する。
- ・「緑の中のまちづくり」や「沖縄らしさ」等の表現についての議論のベースとする。

(1) - 2 平成 29 年度の詳細 VR 制作の考え方

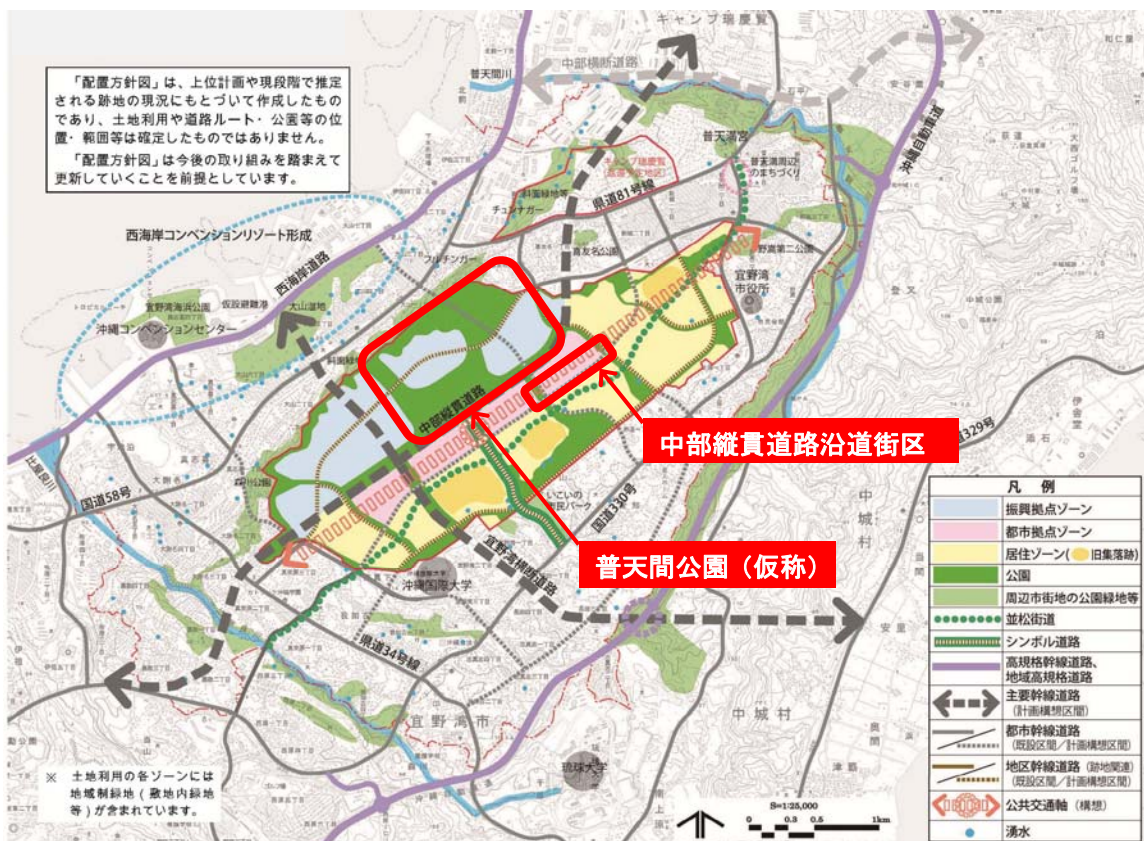
(1) - 2 - 1 VR の作成の考え方

平成 29 年度の VR 制作は、普天間公園（仮称）と中部縦貫道路沿道街区の別案を作成した。普天間公園（仮称）については、普天間公園（仮称）懇談会からの提言を踏まえた過年度とは異なる公園のあり方の検討を行い、沿道街区の別案については、建物の形状や容積率の違いに伴う空地のボリュームの変化や景観的な変化についての検討を行った。また、普天間飛行場跡地全体を対象として VR の更新を行った上で、普天間飛行場跡地におけるライフスタイルのイメージを共有できるよう、まちまーいの目線で見えた風景を見せる手法を検討し、VR を作成した。

上記の検討結果を基に、29 年度の VR 作成に向けた考え方について、具体的に整理した。

また、制作にあたる留意点は、以下のとおりである。

- ・ 県民、市民や地権者に土地の活用や生活のイメージが伝わるよう作成
 - ・ 県民、市民に向けた住宅のイメージや文化財・自然環境の保全・活用イメージが伝わるように作成
 - ・ 事業のリアリティがあるよう、ある程度夢と現実のバランスに配慮しながら作成
- * なお、作成上、広域道路や土地利用計画をある程度想定するが、現時点でのアウトプットとしては、部分イメージとして限定的に活用



図IV-1 平成 29 年度 VR 制作範囲

(1) -2-2 イメージVRの作成について

■ 普天間公園(仮称)の別案



俯瞰イメージ



俯瞰イメージ



森の動物園イメージ



森のガーデンイメージ

■ 沿道街区の別案



タワー型マンションイメージ



タワー型マンションイメージ



中層板状マンションイメージ



低層(タウンハウス型)集合住宅イメージ

■まちまーい



文化ホールイメージ



戸建て住宅イメージ



並松街道イメージ



林間住宅イメージ



大学イメージ

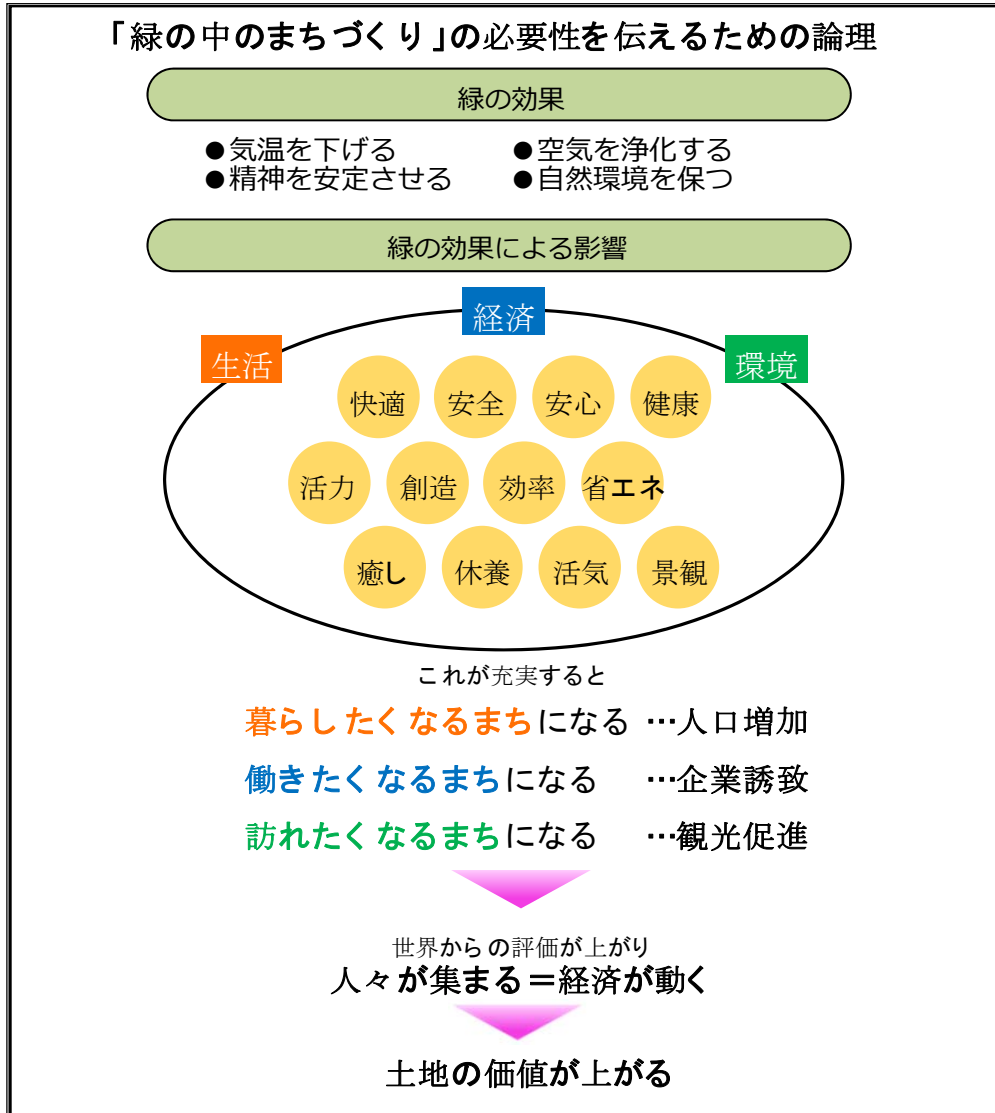
図IV-14 VRを活用した普天間飛行場跡地利用における将来イメージ

(2) PVの制作

(2) -1 平成 29 年度のプロモーションビデオ (PV) 制作の取組について

(2) -1-1 構成の趣旨

普天間飛行場跡地を「緑の中のまち」として計画することは、跡地の価値向上につながることを伝える。



(2) -1-2 構成演出のポイント

- 「緑の中のまち」をつくることは、世界的な評価をあげ、人を集めることにつながり、人が集まる事で経済が動き、引いては土地の価値を向上させることが伝わるストーリーとして展開する。
- なぜ、「緑の中のまち」が価値を高めるのかを「緑の効果」としてわかりやすいキーワードで抽出するとともに具体的な数値や図説を加えて、価値が高まることを喚起する。
- 緑の効用をナレーションで、集まる人々のライフスタイルを SNS でのつぶやきのような吹き出しにして表現。
- VR イメージと、シンガポールの実写映像を一画面のなかで対で見せ、現実感を表す。

(2) - 2 映像の基本構成

全体を大きく3つの章に分けて構成する。

導入部分は「緑の中のまち」の必要性、つぎに「緑の効果」とライフスタイル、最後に「まとめと呼びかけ」となっている。

(3) 映像の基本構成

「緑の中のまち」の必要性

① 価値が高い世界の都市とは---

- 世界の観光都市トップ5
- 世界の住みやすい都市トップ5
- アジア駐在員にとって最も住みやすい都市トップ5

高い評価には理由がある---

② 跡地の価値を高める要素

- みんなが暮らしたくなるまち
- みんなが働きたくなるまち
- みんなが訪れたくなるまち

これを実現させるのが「緑の中のまちづくり」

「緑の効果」とライフスタイル

③ 暮らしたくなるまち

- 緑は、暮らしを快適にする
(遮熱、気温低下、空気浄化など)
- 緑の広場は、コミュニティが生まれる
- 緑の広場は、安心安全を守る

④ 働きたくなるまち

- 緑の中の施設は創造性を高める
(緊張緩和、静寂空間の確保)

⑤ 訪れたくなるまち

- 緑は心を癒す
- 緑は活力をもたらす
- 沖縄の魅力「海・空・緑」

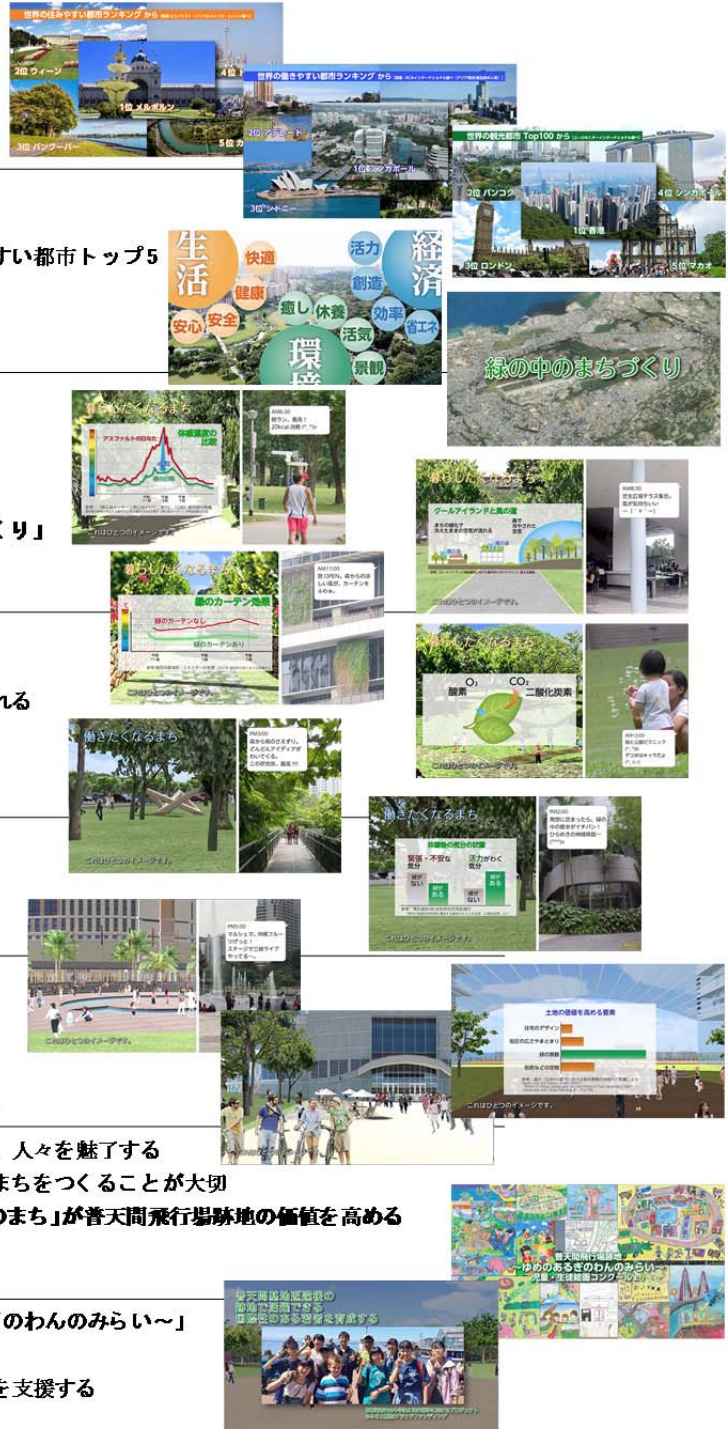
まとめと良い呼びかけ

⑥ 世界に誇れる魅力あるまちづくり

- 美しく整備された緑のあるまちは、人々を魅了する
- 人々を集めるためには、魅力的なまちをつくるのが大切
- 世界の人々を惹きつける「緑の中のまち」が普天間飛行場跡地の価値を高める

⑦ 未来を担う人も育てる

- 「普天間飛行場跡地～ゆめのあるぎのわんのみらい～」
児童・生徒絵画コンクール
- 宜野湾市の中学生の短期海外留学を支援する
クラウドファンディング



(2) - 3 PVの流れ

写真やVR画像〔アニメーション〕を多用し、テロップを入れることで視覚的に伝わりやすい手法をとっている。ナレーションも映像を補完する程度のボリュームに抑える配慮をした。

2 今後の情報発信策の具体化

(1) ホームページコンテンツの整備更新

(1) -1 「PV VR編 Vol.4 南側エリア」コンテンツの更新 【TOPページ】



パナーの修正
・南側エリア追加

お知らせに追加
・南側エリア公開

未来のまちイメージVR
・南側エリア追加

【VRページ】



南側エリア追加
・公式動画へのリンク設定

(1) - 2 「模型で見るむかしの風景」コンテンツの更新
 【模型で見る むかしの風景ページ】



番号にカーソルをのせると、右に画像と説明文が表示

昨年度実施の「まちまーい」は、こちらからリンク

(1) - 3 「普天間飛行場跡地～ゆめのあるぎのわんのみらい～」コンテンツの更新
 【受賞作ギャラリーページ】

画像をクリックすると
 拡大表示



(1) - 4 「緑のなかのまちづくり・海外事例紹介」コンテンツの更新
 【TOPページ、「緑の中のまち」事例のひとつ。シンガポールページ】



(1) -5 アクセス解析結果

Google アナリティクスを使いHPのアクセス解析を行った。月平均約560名（前年度300名）のユーザーが来訪し、約2,454ページビュー（前年度1,000ページビュー）がある。1ユーザー当たり約4ページを閲覧している。昨年度に比べ、大幅にHPへの来訪者が増えている。理由としては、コンテンツが増えた結果と思われる。

(2) 今後の展開

過去4年間は、中間取りまとめの周知を始めとして計画づくりの進行とともに視覚的に分かりやすく伝えるため、プロモーションビデオをメインツールにして毎年テーマを変えてまちづくりの計画策定のイメージを盛込んだ内容とした。

ビデオの制作過程においても、地権者や有識者の意見なども取り入れるよう配慮した。そして、完成したPVに対して多くの市民・県民の意見をいただき、それを計画に反映することを意図してきた。

また、専用のサイトを立上げそのなかで、PVの視聴やまち歩き、原風景模型などをテーマにしたさまざまなコンテンツを掲載し、情報発信の充実と合意形成のための意見聴取を目指してきた。

さらに、PV動画やホームページ以外にも、キャラバン、フォーラム及びワークショップの開催等を実施し、直接市民・県民と触れ合う機会の充実も図ってきた。

本年度は、普天間飛行場跡地の各エリアごとの特徴をVRで表現しながらそのイメージを効果的に織り交ぜて伝えてきた手法とは異なり、計画の大きな柱のひとつである「緑の中のまちづくり」に焦点を当て、海外の事例の実写とVRを交え、さらに数値などのデータも示しながら、より具体的に分かりやすい表現手法をとった。

今後は、計画策定の進捗に合わせて、主要となるインフラである鉄軌道や広域道路ネットワークのイメージ、並びにライフスタイルといった暮らし方のイメージなどを国内外の事例や将来予測・トレンドなど市民・県民に分かりやすく伝わる工夫を取り入れながら、さらなる意見聴取と合意形成につなげていく。

また、PVや模型、ホームページコンテンツなどの素材が蓄積されており、それらを有効活用して、市民・県民に直接見たり触れたりしていただく機会を設け、将来を担う子供たちの学習教材への応用なども行い、幅広い世代に機運を醸成していく。さらには、県外・海外へターゲットを広げていく。